

学級開きから半年、残り半年、別れの時を考えながらの学級経営ですね。学級園のサツマイモの収穫が終わり保護者を招いて趣向をこらした芋料理に挑戦している学年があります。また、修学旅行、学芸会に向けての準備と、先生方の頭の中はめまぐるしい日々を過ごしてみえることと思います。二学期制の施行によって、あつという間の10月という方もみえることでしょう。十月末、久しぶりに若手研を開催しました。

18年10月の例会報告

- ◆ 期 日 平成18年10月28日(土) 午後2時
- ◆ 場 所 西加茂郡三好北部小学校
- ◆ 参加者 酒井宏明(西加茂郡三好北部小学校)
植木見知(同 上)
岩田圭司 知多郡武豊町立衣浦小学校
中島年隆(西尾市立西野町小学校)
宇野善久(弥富市立十四山西部小学校)
川合英彦(豊田市立則定小学校)



植木さんと今回お話をしながら、力のある方だなと思いました。石川英志先生、前田勝洋先生のこともご存知でした。早川浩史先生(江南市立北部中)は現在、異業種体験事業でJAL(日本航空)に出向してみえます。こちらの報告も楽しみにしていますね。霜田先生にも出席していただける予定でしたが、奈良へ行かれることになって欠席でした。

1 3年社会「お茶農家の仕事をさぐろう」(中島先生)

昨年、西尾市の教育論文に入選し、今回の実践が来年度の県教研、愛社研の提案となる中島先生の提案でした。

中島先生は、子どもたちがまだ十分に育っていないので、まず調べて発表する力を育てたい、という願いのもとに授業を構想してみえました。中島先生自身、お茶屋さん(西尾では、お茶を作っている農家をこう呼ぶそうです。親しみをもてますよね。)に何度も足を運び、西野町地区のお茶栽培の歴史、お茶作りの様子について詳しく教材研究をしてみました。

話題となったのは子どもたちの疑問を引き出して西野町のお茶農家の人々の苦労や工夫に迫る単元構想についてです。

- ◆導入のあり方:教材との出会い。①好きにさせる。例:図書館の学習で本好きな子を②驚きのあるインパクトのあるもの。例:奈良から翌日に届く「宅急便」。「早さ」を実感させる。③子どもたちの生活の中にあるお茶のイメージをクローズアップする例:総合的な学習の体験的な学習との関連から。

- ◆「西野町のお茶の秘密をさぐろう」という学習課題について。

お茶の農家の見学に行った後、気づきや疑問を出し合う中で、より具体的な学習課題が生まれてくるのではないかと。そこを一つの山としてはどうか。

- ◆クラス全体で追究する農家を決めて「〇〇さんちのお茶づくり」とすると、人間の生き方がクローズアップされてくる。そこを核として、個人追究で別の農家や、消費者など

が視野に入ってきて、比較や多面的な見方が生まれるのでは。

- ◆ クラスの中にいるお茶農家の子、お茶農家でない子、それぞれの子のお茶、お茶農家に対してどんなイメージもっているのか。その子のイメージをこの単元を通してどうしたいのか（単元をくぐりぬけた姿）をおさえる。教師が願いをかける。単元を通してその子のとらえ方の変化をさぐりながら、次の展開を考えていく。その子には、どんな事実、対象とかかわらせること、活動に向かわせることがよいかを考えるとよい。
 - ◆ かかわり合いのない発表の授業は、「カラオケ屋さんの授業」。学級朝の会などを生かして子どもの発言のつながり、かかわりあいを育てたい。
 - ◆ お茶屋さんの悩みはどんなものがあるのか。→ペットボトルのお茶の流行。オーストラリアでお茶栽培。→高級品化を図る。⇔←そこまで小3でねらうのか？まず、郷土のにはほりを持つをねらうのでは？
 - ◆ 最近の農家の努力→①品種改良の工夫。②栽培だけでなく、加工、販売まで携わる。中島先生の提案について話しは尽きませんでした。若手研終了後、中島先生と、場所をかえて話し合いました。クラスには、この地区にお茶栽培を始めた人のお孫さんがみえること、その家では、今でもおばあちゃんがお茶づくりに携わってみえること、息子さん夫婦はお茶づくりをやっていないことなど様々な話を聞かせてくださいました。各お茶農家の就労形態を知ることとて、「こんなに有名なお茶なのに、なぜ若い人はやらないんだろう」という疑問が生まれる可能性を感じました。また、お茶農家の子が普段見ている農家の生活の様子、あるいは意欲的にお茶栽培に取り組む若者を個人追究する子どもがいれば、ダイナミックな展開の授業になるのでは、と感じました。まず、クラスの子どもたちの意識をとらえるところから始めたいと中島先生は言って見えました。
- 中島先生、今が、太れるときですね。

2 チュニジア旅行記 （岩田先生）

今年の夏、北アフリカ・チュニジアを2週間一人旅した岩田先生の報告でした。先住民族ベルベト人、ローマに滅ぼされたフェニキア人、ローマ時代のカルタゴ遺跡、イスラム（アラビア人）のモスク、オスマントルコ時代のモザイク絵画、フランスによる植民地化の名残と、高校時代の世界史の授業のようでした。地中海の青い海と白壁の建物。そして砂漠では日本製のランクル・プラドが走り回っていたそうです。クスクスという食事を食べ、プラレージアという世界遺産を見学し、日本人のおばちゃまと仲良くなったそうです。ホテルは、その日に探して決めましたか。岩田先生はずっと冬と夏に外国の1人旅を続けてみえるそうです。岩田先生、すご〜い！そして岩田先生、旅行とは別にいいことがあったそうです。おめでとう、岩田先生！

3 豊かな心をはぐくむ読書体験—伝え合いの活動を通して— （宇野先生）

5年間にわたる研究の概要をプレゼンのレジュメを元に話していただきました。読書活動をベースに伝え合いをどう展開するかという実践でした。読書から得た感動や伝え合う場、感動を共有する場として図書集会を位置づけ、発表する側と聞き手の交流を図ったそうです。また、授業の中で、他学年、保護者、保育園児へと伝え合う活動を練り上げていったそうです。

宇野先生の提案について十分な時間がとれなくて申し分けありませんでした。用意して

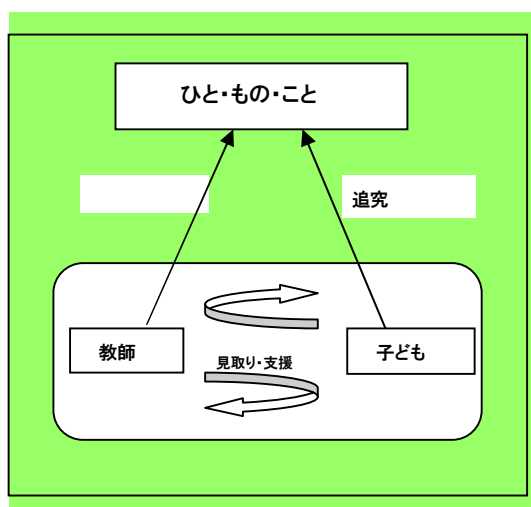
いただいたプレゼンのレジュメを見ているだけで取り組みが伝わってきました。宇野先生、さすがですね。読書体験と伝え合いを意識した交流活動、本校でもぜひ取り組んでみたいと思いました。

4 「考える子ども」304号の論文を読んで (川合)

(1) 「豊かな学力」子どもと共に創る授業から見えてきたこと (藤田恵子)

「考える子ども」304号 P49-53

◆関連ブログ：はーと&はーと2006 (2006-10-15) / 豊かな学力 子どもと共に創る授業から見えてきたことー <http://kfujita11.exblog.jp/4009089/>



藤田先生への原稿依頼のいきさつから、東京学芸大への内地留学での様子を紹介した後、左記の図について話しました。

教師が教えるべき内容を子どもに教える授業、つねに教師が正解を持ち、子どもが教師の正解を当てるからの脱却を示しています。教師、子どもからの矢印の方向がポイント。日本国中の教師が、この考え方をおさえて授業づくりを行えば、日本の教育は変わる、という言い過ぎでしょうか。

座席表を子どもたちに使わせる手法などが話題になりました。また、藤田さんは初志の会の「誌友」の方ですが、平野先生を通じて重松先生、上田先生のことを大変学んでみることも話題になりました。藤田さんのブログもコピーして配布しました。興味を持った方は、ぜひ下記ブログをのぞいてみてください。熱い思いが伝わってきますよ。

【「ハート&はーと2006」 <http://kfujita11.exblog.jp/>】

(2) 内在的な価値に基づく学力への転換 名古屋大学 柴田好章

「考える子ども」304号 P54-57

ゼロ成長時代の学歴社会の崩壊に伴う教育の社会的に果たす役割の変化を好機ととらえ、手段としての学力から豊かな人生につながる目的としての学力への転換を、という論文でした。現在を渋滞する電車に例えた比喻が絶妙でした。

共感できる論でした。柴田先生の論が、社会的に一般化するのには20年後、30年後かも、あるいはそうならないかもしれない。だからこそ提唱する意義がある、と感じました。

5 西川純先生 (上越教育大学) とのやりとりから (川合)

9月13日の愛教大でのシンポジウムでの出会いから、メールのやり取り、そして、書籍の感想までざっと話しました。「私は、現場の先生からのメールには必ず真剣に答えます」という西川先生の言葉、西川先生の提唱する学習臨床学、上越教育大学の西川研究室

の学び合いの研究、書籍『「静かに」を言わない授業』に話題が及びました。手法の違いはありますが、私たちと近い考えの方だと思います。

6 三重・答志島小学校の実践について（川合）

先週の木・金（10月26、27日）のへき地研・1泊2日の研修報告。今回の若手研は、内容豊富で、このあたりはもう時間が押してきて、みんなで話し合う時間がありました。私としては、島の若者と中学生が語り合う会で若者の言葉を中学生がどう受け止めたかに興味がありました。よい企画だと思いました。また、社会科授業でなく総合的な学習で子どもたちに木簡を書かせ、その気づきを生かす授業がありました。答志島、いっぺんで好きになりました。宿でドラゴンズが負けて、日ハム優勝のテレビを見てました。

【参考】教務日記：18年10月27日（金）東海北陸へき地研会・三重大会（2）

<http://blog.goo.ne.jp/goonorisada/e/b865d6bc05797884a3c7b70843c16b74>

【会報あとがき】

今年の夏の全国集会、そして「考える子ども」の今月号で、全国の初志の会に関するサークルの紹介がありました。サークルの輪が広がるといいな、と思います。

よろしかったら今回の若手研についての感想、ご意見をお寄せください。

また、[ブログ・若手研](#)も公開しています。お時間があるときにご覧いただき、コメントなど書き込みをしていただければ幸いです。

◆ 連絡先 hmk333@ybb.ne.jp （川合英彦）

勤務先 豊田市立則定小学校（0565-63-2001）

自宅 〒444-2121 岡崎市鴨田町北魂場79-14

◆ [ブログ・若手研](#) <http://blog.goo.ne.jp/hmk333/>

次回の若手研について

◆ 期 日 平成18年12月10日（日）午後2時～

◆ 場 所 愛知県西加茂郡三好町立三好北部小学校
（東名高速道路三好インターの隣の学校です。）

※ 事前に参加連絡、提案など、メール等でお知らせいただければ幸いです。

11月、各地で研究会が開催されます。参観して「こんな授業がしたい」という授業を見たいですね。研究会の参加報告も次回ぜひどうぞ。自分の実践、日々の子どもの記録、読んだ本の感想など、どんな内容でも結構です。ぜひ提案してください。

初志の会・東海集会（静岡）は1月6日（土）、7日（日）です。霜田先生の子どものとらえ方にかかわるご講演、安東小OBの小酒井先生の教師の生き方にかかわるご講演もあります。参加したいですね。

（文責：川合）

